

## 熱性けいれん の 予 防

乳幼児期(生後6か月ころから4、5歳ころまで)は、発熱時にけいれんを起こすことが少なくありません。

熱性けいれんをおこしやすい子どもには、発熱時に抗けいれん剤(けいれんをおこさないようにする薬)を使用することで、熱性けいれんを予防することができます。



世界の  
子どもに  
ワクチンを

日本委員会

塙田こども医院

一口メモ

### ダイアップ坐薬

けいれんを抑える坐薬として、よく使われているものです。

直腸の粘膜から血液の中に吸収され、脳に働いてけいれんを抑えます。吸収のスピードは速く、使用後5～10分で効いてきます。(入れたあとにすぐお尻から飛び出してきたときは、また同じものを入れ直して下さい。つまめないぐらいに柔らかくなってしまえば、お薬の成分はかなり吸収されていますので、そのままではございません。)

一般名は「ジアゼパム」で、同じ成分の飲み薬や注射薬もあり、いずれもけいれんを抑える薬として使われています。



# 熱性けいれんの予防



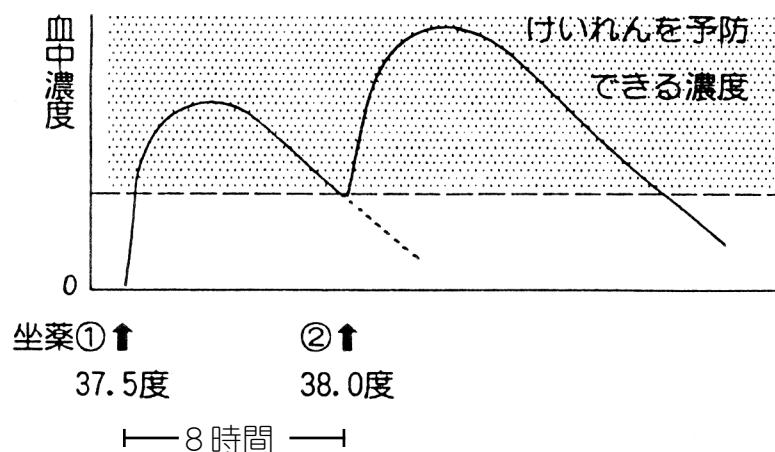
## ダイアップ坐薬の使い方

熱性けいれんは、体温が急激に上昇するときに最もおこしやすいので、体温が37.5度をこえたら、できるだけ早くダイアップ坐薬を使用して下さい。

5～10分ほどで、けいれんを抑える働きがあらわれ、その効果は約8時間持続します。

発熱が続くようなら、約8時間後に2本目の坐薬を入れて下さい。その後は16時間ほど効果が持続します。

熱性けいれんは発熱から1日目に最も起こしやすいこと、また2本使うことで24時間以上効果があるため、その後はダイ



アップ座薬を使用せず、経過を見ていきます

ダイアップ坐薬は、脳に働いてけいれんをおこさないようにしてくれますが、熱を下げるものではありません。熱さましの坐薬は、30分以上の間隔をおいて使用して下さい。（同時に使用すると、十分体の中に吸収されないことがあります。）

保育園・幼稚園に通っているお子さんは、園でも発熱時にダイアップを使用してもらう必要があります。園への依頼文書を発行しますので、お申し出下さい。



## 副作用の注意

この方法を数年間行いますが、使用する薬の総量は非常に少ないので、大きな副作用の心配はありません。

その場の副作用として、一時的に眠気、めまい、ふらつきなどがありますが、ゆっくり休むことでよくなります。程度が強いようなら、医師に相談して、使用する坐薬の量を変更してもらって下さい。